

特別展

**およげ！ゲンゴロウくん
～水辺に生きる虫たち～**

11月6日(日)まで

水の中の多様な昆虫たちを標本や生きている状態で展示するほか、その衰退や保全活動を紹介し、危機的な水辺環境の実態を知ることで、その再生や生物多様性を考えるきっかけとしていただきたいと思います。

観覧料(常設展含む) /
20～64歳(学生を除く) 710円
20歳未満・学生 400円
高校生・65歳以上 200円
中学生以下 無料

企画展

**箱根ジオパーク
をめぐって(仮称)**

12月10日(土)
～2012年2月26日(日)

箱根地域の地質をはじめとして、その大地の上に生きる動植物や、縄文時代から続く人の歴史まで、幅広い視点で箱根ジオパークの見どころを紹介します。

観覧料/無料(常設展は別料金)

学芸員のとおきトーク

毎週金曜日 11:00～11:30
13:30～14:00

学芸員が展示室で奥の深い「はなし」をします。内容は、その日のお楽しみです。費用:無料(入館券が必要です)

**博物館ちよこつと体験コーナー
(愛称:ちよこな)**

毎週土曜日・日曜日 10:00～12:00
13:00～15:00

展示に関係する内容のワークショップです。プテラドンの紙飛行機を作って飛ばしたり、ムササビやフクロウのぬりえなどを体験できます。

折り紙ひろば

1月を除く毎月第1日曜日 13:00～15:00
学習指導員と一緒に、折り紙でさまざまな恐竜を折ります。

**子ども自然科学ひろば
「よろずスタジオ」**

3月を除く毎月第3日曜日 13:00～15:00
さまざまな実験や観察を通して、子どもたちが自然科学を身近に感じられるイベントです。※友の会との共催。

**第98回サロン・ド・小田原
「子どものための展示を考える」**

11月19日(土) 17:30～18:30
講師:大島光春(当館学芸員)
講演会や交流会を通じて、学芸員や自然史の達人等と気軽に語り合う集いです。※友の会との共催。
交流会(18:40～20:00)は有料。Faxまたは葉書にて事前申し込みが必要です(申込先は右下問い合わせと同じ)。

催し物のご案内

●野外観察「身近な自然発見講座」

[博物館周辺]
日時/①10月12日(水) ②11月9日(水)
③12月14日(水) 10:00～15:00

対象/どなたでも
申込締切/当日受付
※持ち物:筆記用具、昼食、帽子、軍手、タオル、雨具。あればルーペ、双眼鏡も。歩きやすい服装で。
※講師によりコース等が多少変わります。

●野外観察「動物ウォッチング～動物のしぐさを観察しよう～」[横浜市立野毛山動物園]

日時/10月22日(土) 10:00～15:00
対象/小学生とその保護者 20人
申込締切/10月4日(火)

●野外観察「海岸の石ころ観察会」

[荒久海岸(小田原市)]
日時/11月3日(木・祝) 10:00～15:00
対象/小学生とその保護者 30人
申込締切/10月18日(火)

●講義と室内実習「骨のかたちをくらべよう～子ども編～」[博物館]

日時/11月5日(土) 13:30～15:30
対象/小学1～3年生とその保護者 12人
申込締切/10月18日(火)

●講義と室内実習「植物分類講座～イヌホオズキ類を見分ける～」[博物館]

日時/11月19日(土) 13:30～15:30
対象/中学生～大人 24人
申込締切/11月1日(火)

●室内実習「ダイバーのための魚類学講座」[博物館]

日時/12月4日(日)・11日(日) 9:30～16:00
対象/高校生～大人 各回10人
申込締切/11月15日(火)
※全日程への参加が条件です。

●野外観察「冬の地形地質観察会」

[博物館～一夜城～小田原城]
日時/12月17日(土) 10:00～16:00
対象/小学4年生～大人 40人
申込締切/11月29日(火)

●室内実習「いん石をさぐる」[博物館]

日時/12月23日(金・祝) 10:00～15:00
対象/小学4年生～高校生とその保護者 30人
申込締切/12月6日(火)

ライブラリー通信

大英自然史博物館の人々

おおさわすみこ
大澤澄子(司書)

自然史博物館が好きな方なら、『乾燥標本収蔵1号室 大英自然史博物館 迷宮への招待』(NHK出版)という本を知っている方も多いでしょう。もう読んだ方もいらっしゃるかもしれませんね。

この本は大英自然史博物館(ロンドン自然史博物館)の主席研究員でロンドン地質学会会長であった古生物学者のリチャード・フォーティ氏書いたもので、博物館の舞台裏とそこを支えてきた研究者たちが描かれています。大英自然史博物館の創成期から現在までたくさんの人々が登場しますが、やたらと「サー・○○○・○○○」という名前の人がいます。なぜ「サー」なのでしょう。そこで、自然科学とは違った方向から大英自然史博物館の人々を見てみます。

「サー」とは、イギリスにおいてはナイト(騎士)と、そのひとつ上の階級、準男爵の位を国王から与えられた男性の名前の前に付けられる称号です(女性なら「デーム」)。準男爵となる人はとても少ないので、この本にでてくる人々はおそらくナイトでしょう。ナイトとは中世ヨーロッパの騎士に由来しますが、今はもちろん鎧に身を固めて馬に乗ってたりはしません。ナイトの位は、現代では政治や学術、芸術、文化などに貢献した人に贈られます。コナン・ドイルやポール・マッカートニーがよく知られていますね。業績のある平民を讃えるものです。準男爵の上は、男爵、子爵、伯爵、侯爵、公爵となり、この5つが貴族です。男爵の位はサッチャー元首相などトップに昇りつめた平民に与えられますが、公爵だと王族などに与えられます。まだ身分制度が生きているのです。

大英自然史博物館の歴代館長の名前を見ると、ほとんど「サー」がついています。イギリスという国が、これまでいかに博物館と自然科学者を高く評価していたかわかります。自然史博物館での研究は気高いジェントルマンの仕事なんです。今は、大英自然史博物館ではジェントルウーマンもたくさん働いています。

催し物への参加について

講座名、開催日、代表者の住所・電話番号、参加者全員の氏名・年齢を明記の上、往復はがきにて郵送、または博物館ホームページからお申込ください。応募者多数の場合は抽選となります。抽選で落選した方に対し、キャンセル待ちの対応を行います。ご希望の方は、お申込時に、その旨をご記入ください。参加費は無料ですが、講座により傷害保険(1人・1日50円)への加入をお願いすることがあります。小学3年生以下の場合は、保護者の付き添いをお願いいたします。複数日にわたる講座は、全日程への参加が条件です。野外観察は、雨天・荒天時中止になることがあります。

問合せ先

神奈川県立生命の星・地球博物館
企画情報部企画普及課
所在地 〒250-0031 小田原市入生田499
電話 0465-21-1515
ホームページ <http://nh.kanagawa-museum.jp/>